



圧縮されたわらは円柱状の形になり、「ロールペール」と呼ばれるものになります。



「カッティングロールペラー」という機械を使ってわらを刈り取ると同時に圧縮します。

10:00

## 餌となるわらを収穫するため畑へ



この日は年に2回行う餌の収穫のため、約30分掛けて自分で管理する畑へ。毎年、5月初旬と9月中旬～10月初旬にわらを収穫します。



ロールペールはトラクターに付いたアームを使いトラックに積み、知人や父親の協力のもと牛舎へ運ばれます。1回の積み量には限界があるため、牛舎と畑を何度も往復します。



運ばれたロールペールは専用の機械でラッピングします。



日が暮れ始め、ロールペール溜め場にはでき上がったものがたくさん転がりますが、畑では収穫が終わらず翌日に作業を持ち越すことに。

### ひと手間かけて美味しい餌にする

ラッピングが終わったロールペールはすぐに餌として使われるわけではありません。1～3か月ほど日にちを置いておくことでラップの中で乳酸発酵を進ませます。こうして漬物に似た状態にすることで、保存が効き、わらが育たない冬でも餌に困りません。発酵が終わると麹のようなにおいがして、牛の食欲が進む美味しい餌の完成です。



## 再び牛舎へ

畑から戻るとすぐさま牛舎の掃除に取りかかります。



ザッ ザッ

配合飼料

大会規格用の牛には自家栽培した餌ではなく品質管理がされているわらやペレットと呼ばれる配合飼料を与えます。餌やりを終えるとブラッシング。毎日かかさず行います。



気持ちいい

20:00

## こうして1日が終了!!



広い牛舎でも同じように餌を与えます。ここまでほとんど休憩することなく作業にあたります。

## 牛への愛情あるからこそ

「毎日牛の世話をしていると手が空くこともあります。だからといって今日は早く帰ろうなんてことはできないんですよ。自分が手をあげばその分だけ牛の体調に表れて跳ね返ってきますからね。なにより牛が好きだからこそ妥協はできません」

繁殖農家 西郷 吉孝さん



# 密着! 畜産農家の1日

今回の全共で輝かしい成績を収めた南那珂地区。

しかし、その牛たちを育てた農家のみなさんは、全共規格の牛を育てることだけが仕事ではありません。

では一体、普段どのようなことをしているのでしょうか?

福島地区で和牛の繁殖農家を営む西郷さんの1日に密着しました。

6:30

## 1日の始まり



舎内には、妊娠中の牛、出産を終えた牛とその子牛を含め42頭を飼育。餌を与える前には全体を見回り、牛の体調を確認。必要があれば、すぐさま獣医に診てもらいます。



農家の1日は早朝から始まります。牛舎の横には今回の全共のために、大会規格用の牛だけの部屋を新設。



7:00

## まずは餌やり

牛の食事は朝夕の2回。ということで、早速朝ごはん。ロール状にされたわらをほくしながら与えていきます。

なんと1食で約300kgもあるこのわらの塊を消費してしまうそうです。



与える餌が違う!



飼料稲



出産後の牛と子牛



牧草



妊娠中の牛

### 掃除をするのには大事な理由!

注意して餌を与えていても牛が体調を崩してしまうこともしばしば。下痢をしたことが一目で分かるように地面を綺麗にしておくことが重要です。この作業を怠り、体調に気付かないでいると牛が死に至ってしまうこともあるため、油断大敵! 西郷さんの奥さんも掃除を手伝います。



### 主食は牧草と飼料稲

子がいる牛と妊娠中の牛とは与えるわらには違いがあります。子がいる牛の場合、子は親の乳を飲むため親が食べたものが直接、乳に影響します。子牛は栄養価の高い物を摂ると下痢をしまい、体調を崩してしまう恐れがあるので危険。そのため親、子には、栄養あるでんぷんが含まれる稲穂が付いていない飼料稲を与えます。反対に妊娠中の牛は出産を控えており、たくさん栄養を摂る必要があるため、牧草や飼料稲を混ぜながら与えます。